

日本近代知識人が見た北京

[編] 王 書瑋

[著] 中村三春・高橋博史・篠崎美生子
大國眞希・大島丈志・王 書瑋

近代の北京は、日本人の目にどのように映っていたのか

古都北京は中国の政治や文化の中心として、当時の日本人の必遊の地であり、そこで誕生したのが、日本近代知識人が書いた一連の北京体験であった。例えば芥川龍之介「北京日記抄」(1925)、松村梢風「北京城雑記」(1937)、横光利一の「北京と巴里(覚書)」(1939)、大江健三郎のなどの作品が挙げられる。

本書は、「近代当時の北京が他者としての日本人の目にどのように映ったのか」をテーマとして、さまざまな大学の研究者により立ち上げられた「日本近代知識人が見た北京」プロジェクトの成果となる一冊。



◆目次

- 横光利一の文学と文化論 — 「北京と巴里(覚書)」(1939)に触れて— (中村三春)
- 芥川龍之介「馬の脚」における北京 (高橋博史)
- 日本近代文学と北京 — 「未発の可能性」を探して— (篠崎美生子)
- 昔日の北京に留まる<蝶>の影を求めて (大國眞希)
- 大江健三郎と北京 — 1960年の中国旅行と「下降生活者」— (大島丈志)
- 中国旅行に求めたもの — 「北京日記抄」の生成をめぐる— (王書瑋)

◆著者略歴

- 中村三春(なかむら・みはる)** 1958年生。東北大学大学院中退(博士・文学)。北海道大学大学院文学研究院教授。主著『フィクションの機構』1・2(ひつじ書房、1994・2015)。
- 高橋博史(たかはし・ひろふみ)** 1950年生。東京大学大学院博士課程中退。学習院女子短期大学、大東文化大学を経て、現在白百合女子大学教員。著書に「芥川文学の達成と摸索」(至文堂 1997)がある。
- 篠崎美生子(しのざき・みおこ)** 1966年生。早稲田大学大学院中退(博士・文学)。恵泉女学園大学を経て、現在明治学院大学教員。主著に『弱い「内面」の陥穽—芥川龍之介から見た日本近代文学—』(翰林書房、2017)など。
- 大國眞希(おおくに・まき)** 東京学芸大学連合大学院修了。博士(教育学)。主著に『虹と水平線』(おうふう、2009)、『太宰治 調律された文学』(翰林書房、2015)など。
- 大島丈志(おおしま・たけし)** 1973年生。千葉大学大学院修了(博士・文学)。文教大学教員。主著に『宮沢賢治の農業と文学』(蒼丘書林、2013)など。
- 王 書瑋(おう・しょい)** 1973年生。千葉大学大学院修了(博士・文学)。北京科技大学教員。主著に『芥川龍之介における中国の古典・近代』(新世界出版社、2013)など。

ご注文申込書 貴店名/帖合	注文数	発売：株式会社三恵社 TEL:052-915-5211 FAX:052-915-5019
	冊	[編] 王 書瑋 [著] 中村三春・高橋博史・篠崎美生子 大國眞希・大島丈志・王 書瑋 日本近代知識人が見た北京 104頁/B5判/並製 定価1,400円(税別) ISBN978-4-86693-255-2 C3022
ご注文は、JRCへ FAX:03-3294-2177(TEL:03-5283-2230) 株式会社JRC経由で、すべての取り次ぎへの出荷が可能です。返品は長期にお受け致します。		

※取次配本はありません。